

# 日本専門医機構皮膚科領域 専門医研修カリキュラム

2015年7月

## 内容

### I. 一般目標

総論的目標

各論的目標

### II. 個別目標と方略

目標 1. 専門知識

1. 皮膚科学総論

2. 皮膚科学各論

目標 2. 診断技能

1. 皮膚科診断学

2. 皮膚病理組織学

3. 皮膚科的検査法

目標 3. 治療技能

1. 全身療法

2. 局所療法

3. スキンケア

4. 理学療法

5. 皮膚科手術療法

目標 4. 医療人として必要な倫理性、社会性等の事項

目標 5. 学問的姿勢

### III. 経験目標と評価

# I. 一般目標

## 総論的目標

医師としての全般的な基本能力の修練を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・診断・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医療スタッフの共同作業としての医療の推進に努める。また皮膚科専門医として、医の倫理を確立し、医療情報の開示など社会的要望に応える。また、専門医取得後も生涯学習に努める基盤を作る。

## 各論的目標

カリキュラムは

1. 一般目標
2. 個別目標と方略
3. 経験目標と評価

から構成される。個別目標1には学ばねばならない基本知識の範囲とレベルを示した。個別目標2には診療技能、検査などに関する範囲と要求度、個別目標3には臨床での薬物療法、処置、手術などの技能習得、求められるレベルを、個別目標4には医療倫理や医療安全など、個別目標5には生涯教育の習慣づけを示した。知識や技能の要求度はそれぞれの項目において、知る、理解する、熟知する、説明できる、実施できる、熟練するなどの述語により示してある。

経験目標には、症例提出が要求される必須経験症例と症例数、手術経験症例と症例数を示した。研修プログラム終了時に提出することとする。また、研修内容に偏りや漏れがないよう、別冊の研修の記録に形成的評価としてここに示した疾患群それぞれの項目について経験した疾患群をチェックし、毎年度末に指導医の確認を受けることとする。カルテ内容提出は不要であるが、研修期間中に35領域のほとんどの疾患群を最低1例は経験するよう努めること。

## II. 個別目標と方略

### 目標 1. 専門知識

#### 1. 皮膚科学総論

<一般目標>

皮膚の正常構造、機能および病態生理の知識に基づき、皮膚疾患の診断上必要な一般的知識を修得することを目標とする。

#### 研修項目 1. 構造と機能

<一般目標>

皮膚（および粘膜）の構造を分子（遺伝子）・細胞・組織・肉眼の各レベルにて機能と関連させて理解するとともに、部位による形態の差異（例：皮膚紋理、角層、付属器、皮下脂肪の量など）、および加齢（成長と老化）や環境（例：紫外線暴露など）による変化を理解して、人体最外表器官としての重要性を認識する。

(a) 表皮

<行動目標>

- 1) 基底細胞層から角層までの構築を光顕と電顕レベルで説明できる。また、体表の部位による差異を主に光顕レベルで説明できる。
- 2) 角化に伴う角化細胞（ケラチノサイト）および細胞間接合の、角化に伴う構築変化を、分子レベルにおけるケラチンの合成過程とともに理解し、角化の生理的機能を説明できる。
- 3) 皮脂・角層間脂質、タイトジャンクション、角層の保水能、経表皮水分蒸散量、経皮吸収、抗菌ペプチドなど、バリア機構としての皮膚の微細構造、生理学・生化学機能を理解する。
- 4) Langerhans 細胞の分布、形態、機能を免疫学的役割と関連させて理解する。
- 5) 真皮・表皮境界部の微細構造と成分を理

解することにより、同部の臨床的意義を説明できる。

(b) メラニン・メラノサイト

<行動目標>

- 1) メラノサイト（色素産生細胞）の発生学的由来、体表における分布、構造を説明できる。
- 2) 分子レベルにおけるメラニンの生合成および調節機能、角化細胞への受渡し、角化細胞内での崩壊過程、メラニンの生理的機能を説明できる。
- 3) メラニン、メラノサイトの形態学的証明法について光顕的、電顕的所見や特異的染色法、特異的酵素反応を熟知し、実施できる。

(c) 真皮・皮下組織

<行動目標>

- 1) 真皮（乳頭層、網状層）の構築および部位による差異を、機能と関連させて主に光顕レベルで説明できる。
- 2) 血管系・リンパ系・神経系の分布と構築、とりわけ特別な血管や動静脈吻合、特別な知覚神経終末の構造と機能を理解する。
- 3) 膠原線維・弾性線維の構築と機能、細胞外基質の成分・量・局在を機能とともに理解する。成長と老化に伴う変化についても理解する。
- 4) 線維芽細胞、組織球、マクロファージ、肥満細胞などの結合組織定住細胞の形態と機能を理解する。
- 5) 皮下脂肪層の構築、脂肪細胞の形態と機能、部位による違いを理解する。

(d) 付属器

<行動目標>

- 1) アポクリン汗腺とエクリン汗腺の分布と構造、神経支配、分泌機構、生理学的

および免疫学的機能を説明できる。

- 2) 毛包脂腺系の体表部位における差異、個々の構造、毛周期、成長・老化に伴う変化を説明できる。
- 3) 爪の構造および機能を説明できる。

#### (e) 粘膜

##### <行動目標>

- 1) 粘膜の構造を皮膚と対比しながら説明できる。
- 2) 粘膜の生化学・免疫学的機能を理解する。

#### (f) 年齢や妊娠による皮膚機能の違い

##### <行動目標>

- 1) 新生児、幼小児、妊婦、老人の皮膚の生理機能について、健常成人のそれとの違いを理解し、機能変調に伴う病的な変化に対応できる。

#### <方略>

- 1) 日本皮膚科学会総会における教育講演や日本皮膚科学会研修講習会などにおいて皮膚の構造と機能に関する講習を受ける。
- 2) 皮膚科学・皮膚病理学の成書を読み学習する。
- 3) 皮膚の構造と機能に関する最新の総説を読み学習する。
- 4) 皮膚科専門医テキストを熟読する。
- 5) 毎年達成度を研修の記録に記載し、指導医のフィードバックを受ける。

## 研修項目 2. 病態生理

### <一般目標>

細胞生物学・分子生物学・生理学・生化学・免疫アレルギー学・光生物学・微生物学などの基礎知識の上立って、皮膚科医にとって重要な皮膚の病態生理を認識する。

#### (a) 皮膚病態の細胞生物学・分子生物学

##### <行動目標>

- 1) 皮膚の病態を細胞生物学の視点から動的に把握し、サイトカイン、ケモカインや成長因子のネットワークについて理解する。
- 2) 分子生物学により解明された炎症や腫瘍の病態について理解する。
- 3) 皮膚の生理や生化学的異常に基づく病態について理解する。

#### (b) 皮膚免疫アレルギー学

##### <行動目標>

- 1) 免疫アレルギーの基礎知識としてリンパ球の分類と機能、自然免疫と獲得免疫、抗原提示、アレルギーの反応型、自己免疫、移植免疫、腫瘍免疫について理解する。
- 2) 免疫アレルギーが深く関わる皮膚疾患、例えば膠原病、自己免疫水疱症、蕁麻疹、移植片対宿主病 (GVHD) などについて病態を説明できるのに必要な免疫学的知識を修得する。
- 3) 免疫担当臓器としての皮膚の役割について理解を深める。

#### (c) 放射線生物学・光生物学

##### <行動目標>

- 1) 放射線および紫外線・可視光線・赤外線の物理学的基礎的事項と皮膚に対する生理的・病理的作用を理解する。
- 2) 光アレルギー、光免疫、光老化、光発癌などの分子生物学および細胞生物学的機序について十分な知識を修得する。
- 3) レーザーの原理と治療への応用について理解する。

#### (d) 微生物学

### <行動目標>

- 1) 細菌学、ウイルス学、真菌学、寄生虫学、その他の有害生物について皮膚感染症に関わる基礎的事項を理解する。
- 2) 感染アレルギー、ウイルス発癌など微生物と皮膚病態との接点について理解を深める。
- 3) 抗菌薬やワクチンなど皮膚感染症の治療・予防に必要な知識を修得する。

### <方略>

- 1) 日本皮膚科学会総会における教育講演や日本皮膚科学会研修講習会などにおいて皮膚病態生理に関する講習を受ける。
- 2) 皮膚科学・免疫学・微生物学の成書を読み学習する。
- 3) 皮膚科専門医テキストを熟読する。
- 4) 毎年達成度を研修の記録に記載し、指導医のフィードバックを受ける。

## 2. 皮膚科学各論

一般目標：各種の皮膚疾患全般について必要な知識・技能・態度を修得し、実際の診療に当たって個々の症例に応じた適切な診断・治療を独力で行い、専門医としての実力が発揮できるようになることを目標とする。

### 研修項目

- (1) 湿疹・皮膚炎
- (2) 紅皮症
- (3) 蕁麻疹
- (4) 痒疹
- (5) 瘙痒症
- (6) 葉疹
- (7) 血管・リンパ管の疾患
- (8) 紅斑症
- (9) 角化症
- (10) 炎症性角化症と膿疱症
- (11) 水疱症
- (12) 膠原病および類症
- (13) 代謝異常症
- (14) 軟部組織（皮下脂肪組織・筋肉）疾患
- (15) 肉芽腫症
- (16) 太陽光線による皮膚障害
- (17) 物理・化学的皮膚障害
- (18) 皮膚潰瘍
- (19) 褥瘡
- (20) 色素異常症
- (21) 母斑と母斑症
- (22) その他の遺伝性皮膚疾患
- (23) 上皮性腫瘍・神経系腫瘍
- (24) 間葉系腫瘍
- (25) リンパ腫と類症
- (26) メラノサイト系腫瘍
- (27) ウイルス感染症
- (28) 細菌感染症
- (29) 真菌感染症
- (30) 抗酸菌感染症
- (31) 性感染症（STI）

- (32) 動物性皮膚症・寄生虫症
- (33) 付属器疾患（汗器官・脂腺・毛髪・爪）
- (34) 粘膜疾患
- (35) 全身疾患に伴う皮膚症状

- 1) 定義・分類・病態・一般的症状を説明できる。
- 2) 原疾患に対応した適切な指導と治療が実施できる。

行動目標：

(1) 湿疹・皮膚炎

- 1) 湿疹・皮膚炎の定義・分類・一般的症状を説明できる。
- 2) 湿疹・皮膚炎の一般的局所療法・全身療法の原則を実際に適用し、熟練する。
- 3) 接触皮膚炎の成立機序・病理変化・免疫過程・原因について説明できる。
- 4) 接触皮膚炎の症状・経過を熟知し、症状に応じてパッチテストを施行し、適切な指示と治療を実施できる。
- 5) 日本皮膚科学会の接触皮膚炎診療ガイドラインを理解する。
- 6) 手湿疹の症状・経過を熟知し、日常生活指導・治療を実施できる。
- 7) アトピー性皮膚炎の病因論・経過・小児疾患としての重要性・治療法を説明し、症状を熟知し、治療・生活指導を実践する。
- 8) 日本皮膚科学会のアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを理解する。
- 9) 脂漏性皮膚炎の成因・症状・経過を説明し、症状に応じた治療を実施できる。
- 10) 貨幣状湿疹の症状・経過を説明し、症状に応じた治療を実施できる。
- 11) 自家感作性皮膚炎の意味・症状を説明し、治療を実施できる。
- 12) 乾燥性湿疹、皮脂欠乏性湿疹の病態を説明し、予防のための日常生活指導を行う。
- 13) Vidal 苔癬、慢性単純性苔癬、うっ滞性皮膚炎、異汗性湿疹、顔面単純性秕糠疹、Riehl 黒皮症について理解する。

(2) 紅皮症

(3) 蕁麻疹

- 1) 蕁麻疹の定義、分類（特発性蕁麻疹、アレルギー性蕁麻疹、食物依存性運動誘発性アナフィラキシー、非アレルギー性の蕁麻疹、アスピリン蕁麻疹、物理性蕁麻疹、コリン性蕁麻疹、接触蕁麻疹）、症状、発症機序、原因、病態・病理などについて熟知する。
- 2) 蕁麻疹の問診法・診断法・検査法（原因検索法）を熟練し実施できる。
- 3) 急性蕁麻疹と慢性蕁麻疹の相違を説明できる。
- 4) 血管性浮腫の発症機序を説明し、診断・治療を実施できる。
- 5) 蕁麻疹の治療法・生活指導を熟知し、実施できる。
- 6) 日本皮膚科学会の蕁麻疹診療ガイドラインを理解する。

(4) 痒疹

- 1) 痒疹の定義・分類・病態・症状を説明できる。
- 2) 痒疹の発症と全身性病疾患の関連を説明できる。
- 3) 痒疹の治療法を説明し実施できる。
- 4) 日本皮膚科学会の慢性痒疹診療ガイドラインを理解する。

(5) 癢痒症

- 1) 癢痒症の定義・分類・症状を説明できる。
- 2) 癢痒症と基礎疾患との関連を説明できる。
- 3) 癢痒症の治療、生活指導を説明し実施できる。
- 4) 日本皮膚科学会の汎発性皮膚癢痒症診療ガイドラインを理解する。

(6) 薬疹

- 1) 薬疹の定義・種類・一般症状を説明できる。
- 2) 薬疹の一般問診法・診断法を熟知して実施できる。
- 3) 薬疹の発症機序・病理変化・免疫経過について説明できる。
- 4) 薬疹の一般的治療を実際に適用し、熟練する。
- 5) 薬疹の症状・経過を熟知し、経験した症例に応じて適切な指示を行い、治療を実施できる。
- 6) Stevens-Johnson 症候群、中毒性表皮壊死症、薬剤性紅皮症、薬剤性過敏症症候群 (DIHS) の症状と経過を説明し、治療する。
- 7) 固定薬疹、薬剤性扁平苔癬、薬剤性瘡瘡、光線過敏型薬疹の症状を理解し、治療する。
- 8) 分子標的薬や生物学的製剤の特徴や発生する皮膚障害についての薬疹情報を入手することを心掛ける。

(7) 血管・リンパ管の疾患

- 1) 血管炎の定義・種類・一般的症状を説明できる。
- 2) 血管炎の成立機序・病理変化・免疫過程・原因について説明できる。
- 3) 日本皮膚科学会の血管炎・血管障害ガイドラインを理解する。

以下、4)～13)について症状・経過を理解し、治療を実施できる。

- 4) 皮膚動脈炎 (皮膚結節性多発動脈炎)
- 5) 皮膚白血球破砕性血管炎
- 6) IgA 血管炎 (Henoch-Schönlein 紫斑)
- 7) ANCA 関連血管炎: 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (eosinophilic granulomatosis with polyangiitis, Churg-Straus 症候群)、多発血管炎性肉芽腫症

(granulomatosis with polyangiitis, Wegener 肉芽腫症)、顕微鏡的多発血管炎

- 8) 低補体性蕁麻疹様血管炎
- 9) 膠原病に伴う血管炎、悪性萎縮性丘疹症、Mondor 病、リベド血管症、側頭動脈炎、閉塞性動脈硬化症、Buerger 病、コレステロール結晶塞栓症、動静脈瘻、移動性血栓性静脈炎、うっ血性症候群、肢端紅痛症
- 10) 糖尿病性壊疽
- 11) 網状皮斑
- 12) 特発性色素性紫斑
- 13) クリオグロブリン血症性紫斑、高 $\gamma$ グロブリン血症性紫斑、DIC、血小板減少性紫斑
- 14) 紫斑を生じる疾患の種類・一般的症状・経過を熟知する。
- 15) リンパ浮腫について理解する。

(8) 紅斑症

- 1) 紅斑症の多彩な症状・分類・概念について熟知するとともに、全身疾患との関係を説明できる。
- 2) 多形滲出性紅斑の原因の多様性、臨床・病理を理解し、検査・治療を実施できる。
- 3) 結節性紅斑の原因の多様性、臨床・病理組織所見を理解する。本症を生じやすい基礎疾患を熟知する。Bazin 硬結性紅斑、血栓性静脈炎、結節性多発動脈炎、脂肪類壊死症、サルコイドーシスとの臨床的・組織学的鑑別を説明できる。
- 4) Behçet 病の概念・皮膚症状との全身症状・診断基準・治療を理解し説明できる。
- 5) Sweet 病の概念・全身症状・皮疹と組織像・治療・合併しやすい基礎疾患につき理解し説明できる。

以下、6)～10)の概念・原因・症状・治療につき理解する。

- 6) Reiter 病
- 7) 温熱性紅斑

- 8) Darier 遠心性環状紅斑
- 9) 持久性隆起性紅斑
- 10) 急性痘瘡状苔癬様皰瘡疹  
(Mucha-Habermann 病)
- 11) 次の紅斑類の概念と全身性疾患との関連を  
理解し説明できる。  
慢性遊走性紅斑とライム病、壊死性遊走性紅斑と  
グルカゴノーマ症候群、葡行性迂回状紅斑と内臓悪性腫瘍
- (9) 角化症
- 1) 表皮分化(角化)過程の基本的概念を理解する。
- 2) 角化過程で発現する種々の分子についての基本的性質を熟知し、角化異常症の成立機序におけるケラチンを含めた関連分子の役割を熟知する。  
以下、3)~11)について概念・臨床症状・病理変化・治療を理解する。また、遺伝子異常の解明されたものについては、その内容も理解する。
- 3) 遺伝性角化症：尋常性魚鱗癬、X連鎖性劣性魚鱗癬、先天性魚鱗癬様紅皮症、葉状魚鱗癬、表皮融解性魚鱗癬および魚鱗癬症候群
- 4) 掌蹠角化症
- 5) Darier 病
- 6) 胼胝
- 7) 鶏眼
- 8) 黒色表皮腫
- 9) 汗孔角化症
- 10) 毛孔性苔癬、顔面毛包性紅斑黒皮症
- 11) 融合性細網状乳頭腫症
- (10) 炎症性角化症と膿疱症
- 1) 炎症性角化症・膿疱症の定義・種類・臨床症状の一般的事項を説明できる。
- 2) 乾癬の疫学・病態生理・病態変化を説明できる。
- 3) 乾癬の症状・病理所見・経過を熟知し、
- 症例に応じて適切な指示と治療を実施できる。
- 4) PUVA 療法、UVB 療法(narrow band UVB 療法など)、ステロイド外用、ビタミンD3 外用、レチノイド、シクロスポリン療法、生物学的製剤などの適応、作用と副作用、併用禁忌を説明し、実施できる。
- 5) 日本皮膚科学会の乾癬における生物学的製剤の使用指針および安全対策マニュアル(2011年版)を理解する。
- 6) 膿疱性乾癬の症状・病理所見・経過・治療を説明できる。
- 7) 日本皮膚科学会の膿疱性乾癬(汎発型)診療ガイドライン 2010: TNF $\alpha$  阻害薬を組み入れた治療指針(簡略版)を理解する。
- 8) 疱疹状膿疱疹および稽留性肢端皮膚炎、角層下膿疱症、好酸球性膿疱性毛包炎の定義・症状・病理所見を理解する。
- 9) 掌蹠膿疱症の症状・経過・治療を熟知する。
- 10) 慢性苔癬状皰瘡疹、類乾癬の種類・症状・病理所見・経過・治療を理解する。菌状息肉症との関連を理解する。
- 11) 扁平苔癬の症状・病態生理・病理所見・治療を説明できる。薬剤アレルギーとの関連を理解する。
- 12) Gibert 薔薇色皰瘡疹の症状・経過・治療を熟知し、鑑別診断を説明できる。
- 13) 光沢苔癬、線状苔癬、毛孔性紅色皰瘡疹の症状・経過・治療を理解する。
- (11) 水疱症
- 1) 水疱症の分類・概念について熟知する。
- 2) 天疱瘡および類天疱瘡の分類、標的分子、病態、臨床、病理変化、免疫所見を熟知する。
- 3) 日本皮膚科学会の天疱瘡診療ガイドラインを理解する。
- 4) 血漿交換、テトラサイクリン・ニコチン



酸アミド併用、免疫抑制剤、免疫グロブリン大量静注などの新しい治療法の適応、作用と副作用を熟知する。

- 5) 蛍光抗体直接法および間接法、1M 食塩水剥離皮膚を用いた間接法、ELISA による抗デスマグレイン 1 および 3 抗体、抗 BP180 抗体検査の意義を理解し、治療を実施できる。
- 6) 妊娠性疱疹、粘膜類天疱瘡、後天性表皮水疱症、疱疹状皮膚炎、線状 IgA 皮膚症などの比較的稀な自己免疫性水疱症の分類、症状、病理所見、免疫所見を熟知する。
- 7) 表皮水疱症の分類、症状、合併症、病理変化を熟知し、その原因遺伝子の異常、遺伝相談・治療を理解する。

#### (12) 膠原病および類症

- 1) 各種自己抗体の臨床的意義を理解する。
- 2) 全身性エリテマトーデスの症状・診断基準を熟知し、患者の問診・診察・検査の実施と判定に熟練する。
- 3) 全身性エリテマトーデスの重症度の判定を説明し、それぞれに応じた治療・生活指導を実施できる。
- 4) 全身性エリテマトーデスと妊娠についての最近の考え方を説明できる。
- 5) 円板状エリテマトーデス、深在性エリテマトーデス、凍瘡状エリテマトーデスの症状・診断・治療を熟知し、実施できる。
- 6) 新生児エリテマトーデス、亜急性エリテマトーデスの症状・診断・治療を熟知し、実施できる。
- 7) 抗リン脂質抗体症候群の概念を理解し、症状・診断・治療を熟知する。
- 8) 全身性強皮症の皮膚症状、全身症状・診断基準を熟知し、患者の問診・診察・検査・治療を実施できる。
- 9) 日本皮膚科学会の全身性強皮症・診療ガイドラインを理解する。

- 10) 限局性強皮症の病型・症状・経過・治療を説明し、実施できる。
- 11) 皮膚筋炎の皮膚症状・全身症状・診断基準を熟知し、必要な検査・治療を説明し、実施できる。
- 12) Sjögren 症候群の症状・診断基準を熟知し、必要な検査・治療を説明できる。
- 13) オーバーラップ症候群、混合性結合組織病 (MCTD) の症状、診断・治療を熟知し、実施できる。
- 14) 成人 Still 病の概念、症状・治療について実施できる。
- 15) 壊疽性膿皮症の症状・病態・基礎疾患を理解し、治療する。
- 16) 自己炎症性疾患の概念、症状を理解する。

#### (13) 代謝異常症

- 1) アミロイドーシスの分類、皮膚および全身症状を理解する。
- 2) アミロイド苔癬、斑状アミロイドーシスの臨床像および病理組織像を説明し、その他の皮膚アミロイドーシスについて理解する。
- 3) 全身性アミロイドーシスの組織診断について理解する。
- 4) ムチンが皮膚に沈着する疾患を理解し、その病理組織の特殊染色法と染色態度を知り、汎発性粘液水腫、粘液水腫性苔癬、毛包性ムチン沈着症について皮疹およびその組織像、全身疾患との関連について説明できる。
- 5) 成年性浮腫性硬化症、ムコ多糖症の臨床について理解する。
- 6) 黄色腫の臨床像と高リポ蛋白症との関連を理解し、適切な治療を行う。
- 7) ポルフィリン代謝異常の概要を知り、ポルフィリン症の病型・臨床・検査・治療を理解する。
- 8) マクログロブリン血症、クリオグロブリン血症、ヘモクロマトーシス、Fabry 病

について病因と臨床を理解する。

- 9) 痛風の概念と全身および皮膚症状について理解する。
- 10) ビタミン欠乏症の種類を知り、ペラグラの病理、臨床症状などを知る。
- 11) 石灰沈着をきたす疾患について理解する。
- 12) 亜鉛欠乏症候群、腸性肢端皮膚炎について概念・臨床・治療などを説明できる。

(14) 軟部組織（皮下脂肪・筋肉）疾患

- 1) 皮下脂肪組織を病変の場とする疾患の分類・臨床を理解する。
- 2) 皮下脂肪組織を侵す疾患：深在性エリテマトーデス、物理的な原因による脂肪織炎、皮下脂肪壊死症、全身性または局所性脂肪萎縮症、小児腹壁遠心性脂肪萎縮症などについて臨床所見・検査所見・病理組織像・診断および治療を理解する。
- 3) 筋膜および筋肉の病変を主体とする疾患、例えば、結節性筋膜炎、好酸球性筋膜炎の概念と臨床を理解する。

(15) 肉芽腫症

- 1) 肉芽腫の基本概念・成立機序・病理所見について説明できる。
- 2) 異物肉芽腫の臨床症状、病因および組織学的所見を説明できる。
- 3) 類壊死性肉芽腫（環状肉芽腫、リポイド類壊死症、リウマチ結節、annular elastolytic giant cell granuloma）の概念・症状・病理所見・治療を説明できる。
- 4) サルコイドーシスの概念・診断基準・臨床症状・検査所見・病理所見を説明できる。
- 5) 顔面播種状粟粒性狼瘡の概念・臨床症状・治療について熟知する。
- 6) 若年性黄色肉芽腫の概念と臨床症状・病理所見を説明できる。

(16) 光線による皮膚障害

- 1) 光線の種類と皮膚におよぼす作用について熟知する。
- 2) 日光による生理的皮膚反応：日光皮膚炎、光老化、項部菱形皮膚、光線角化症の臨床・病理組織像を説明できる。
- 3) 光線過敏症：薬剤性光線過敏症、光接触皮膚炎、多形日光疹、日光蕁麻疹、種痘様水疱症の概念・臨床・検査・治療・予防を説明できる。
- 4) 色素性乾皮症の発生機序・臨床・生活指導について説明できる。
- 5) 可視光線または紫外線によって悪化する皮膚疾患を理解する。

(17) 物理・化学的皮膚障害

- 1) 放射線による皮膚障害の分類・臨床・治療を熟知する。
- 2) 熱傷の分類・臨床・重症度判定を熟知する。
- 3) 熱傷の局所療法の基本的事項を熟知し、熟練する。
- 4) 重症熱傷の全身管理・治療について熟知し、実施できる。
- 5) 日本皮膚科学会の創傷・熱傷ガイドライン6：熱傷診療ガイドラインを理解する。
- 6) 化学熱傷の全身管理および局所治療を実施できる。
- 7) 凍瘡・凍傷の臨床・経過を熟知し治療を実施できる。

(18) 皮膚潰瘍

- 1) 皮膚潰瘍の成因について説明できる。
- 2) 成因別の治療法を実施できる。
- 3) 下腿潰瘍の病態と治療について全身性疾患との関連を含めて説明できる。
- 4) 日本皮膚科学会の創傷・熱傷ガイドライン 1：創傷一般、3：糖尿病性潰瘍・壊疽ガイドライン、4：膠原病・血管炎

にともなう皮膚潰瘍診療ガイドライン  
および5：下腿潰瘍・下肢静脈瘤診療ガ  
イドラインを理解する。

#### (19) 褥瘡

- 1) 褥瘡の成因と予防法について説明し、  
予防法を実施できる。
- 2) 褥瘡の病期分類を熟知し、それに基づ  
く保存的治療（薬剤、創傷被覆材）、外  
科的療法、補助療法を実施できる。
- 3) 日本皮膚科学会の創傷・熱傷ガイドラ  
イン2：褥瘡診療ガイドラインまたは日  
本褥瘡学会の、褥瘡予防・管理ガイドラ  
イン（第3版）を理解する。

#### (20) 色素異常症

- 1) 色素異常症の病理学的所見、すなわち  
メラニンの増加や減少、消失が表皮、  
真皮のどのような変化と対応をする  
かを理解する。
- 2) 色素異常症の一般的薬物療法、手術療  
法、遮蔽（カモフラージュ）法、レー  
ザー療法等について熟知し、実施でき  
る。
- 3) 白皮症の分類と原因、診断法について  
熟知し、患者の生活指導を実施できる。
- 4) 尋常性白斑の分類と病態、鑑別診断、  
自然経過、治療法について熟知し、実  
施できる。
- 5) 脱色素性母斑、まだら症、結節性硬化  
症の葉状白斑等の症状、鑑別診断につ  
いて理解する。
- 6) 日本皮膚科学会の尋常性白斑診療ガ  
イドラインを理解する。
- 7) 真皮メラノサイトーシスの概念と、こ  
れに属する疾患について説明できる。
- 8) 肝斑、日光黒子、雀卵斑の鑑別診断と  
治療方針について説明できる。
- 9) 色素異常症の遺伝的、家族的背景につ  
いて熟知し、患者や家族への適切な助

言を与え、症例によっては遺伝相談の  
専門家を紹介する。

- 10) 内分泌疾患等の全身性疾患における  
色素異常の発生機序、症状と診断法、  
治療法について熟知し、実施できる。
- 11) メラニン以外の物質、例えば金属薬剤、  
その他の色素（カロチン・ヘモジデリ  
ンなど）によって生じる色素異常症の  
症状や発生機序、治療法を説明できる。

#### (21) 母斑と母斑症

- 1) 母斑の概念を理解し、その病理発生に  
基づいた分類を説明できる。
- 2) 表皮母斑・脂腺母斑とその症候群につ  
いて症状と経過、治療方針を説明できる。
- 3) 母斑細胞母斑の症状・部位ごとのダー  
モスコピー所見・病理組織像・鑑別すべ  
き疾患を列挙し説明できるとともに、特  
に悪性黒色腫との鑑別点を熟知する。ま  
た、治療方針について熟知し、指導医の  
もとで治療を実施できる。
- 4) 分離母斑、Sutton 母斑、Spitz 母斑、  
dysplastic nevus syndrome について説  
明できる。
- 5) 扁平母斑、単純黒子、太田母斑、青色  
母斑、蒙古斑および類症として遅発性両  
側性太田母斑様色素斑の病理組織像・治  
療方針について説明できる
- 6) 母斑性色素性病変の治療におけるレー  
ザー治療の適応について理解する。
- 7) 単純性血管腫、莓状血管腫、海綿状血  
管腫、くも状血管腫、正中部母斑、海綿  
状リンパ管腫の病状、予後、病理組織像  
を説明し、それぞれの治療方針を熟知す  
るとともに、患者、家族に対して適切な  
説明をする。
- 8) inflammatory linear verrucous  
epidermal nevus、面皰母斑、結合織母  
斑、軟骨母斑、副耳、耳瘻孔、表在性脂  
肪腫性母斑、平滑筋母斑、貧血母斑の症

状を説明できる。

- 9) 母斑症の概念を理解し、頻度の高い母斑、母斑症の全身的合併症、検査法、病理組織像、予後、治療の適応、開始時期を熟知する。
- 10) 結節性硬化症 (Pringle 病)、神経線維腫症 (Recklinghausen 病 ; NF1)、神経鞘腫症 (NF2)、神経皮膚黒色症、Albright 症候群、Peutz-Jeghers 症候群、汎発性黒子症、色素失調症の症状を説明できる。
- 11) 神経線維腫症、結節性硬化症、色素失調症の遺伝子レベルの異常について理解する。
- 12) 日本皮膚科学会の神経線維腫症 1 型 (レックリングハウゼン病) の診断基準および治療ガイドラインを理解する。
- 13) 日本皮膚科学会の結節性硬化症の診断基準および治療ガイドラインを理解する。
- 14) 先天性血管拡張性大理石様皮斑、Sturge-Weber 症候群、Klippel-Weber 症候群、blue-rubber-bleb nevus syndrome、色素血管母斑症、基底細胞母斑症候群の症状を説明できる。
- 15) 母斑、母斑症、遺伝性皮膚形成異常の遺伝について理解し、患者・家族に説明し、適切な指示を与えたり、疾患によっては遺伝相談の専門家に紹介する。

#### (22) その他の遺伝性皮膚疾患

- 1) Goltz 症候群、先天性外胚葉形成不全症、nail-patella 症候群の症状を理解する。
- 2) 斑状皮膚萎縮症、Pasini-Pierini 皮膚萎縮症、Rothmund-Thomson 症候群、Werner 症候群、顔面半側萎縮症などの症状を理解する。
- 3) 遺伝性結合織病として弾性線維性仮性黄色腫、Ehlers-Danlos 症候群、皮膚弛緩症、Marfan 症候群、pachydermoperiostosis などの症状を理

解する。

#### (23) 上皮性腫瘍・神経性腫瘍

- 1) 上皮性皮膚腫瘍を細胞の分化の方向により表皮、毛包、脂腺、アポクリン汗腺およびエクリン汗腺に由来別に分類し理解する。
- 2) 脂漏性角化症の臨床症状、ダーモスコピー所見、病理組織所見、鑑別診断、治療法を熟知し、治療に熟練する。
- 3) 表皮嚢腫・稗粒腫・皮様嚢腫の臨床症状、病理組織所見、鑑別診断、治療法を熟知し、治療に熟練する。
- 4) 汗器官起源性腫瘍：汗嚢腫、汗孔腫、らせん腺腫、汗管腫、汗腺腫、乳頭状汗管嚢胞腺腫、皮膚混合腫瘍、円柱腫などの臨床症状、病理組織所見を理解する。
- 5) 毛包系腫瘍：毛母腫、毛包腫、毛包上皮腫、外毛根鞘腫、多発性毛包嚢腫などについて臨床症状、病理組織所見を理解する。
- 6) 光線角化症、白板症、ケラトア坎トーマ、Bowen 病、Queyrat 紅色肥厚症の症状、病理組織像について説明し、治療を実施できる。
- 7) 乳房外 Paget 病について臨床症状、病理組織所見、鑑別診断、予後を熟知し、治療を指導医とともに実施できる。
- 8) 乳房 Paget 病について、臨床症状、病理組織所見、鑑別診断を熟知する。
- 9) 有棘細胞癌・疣状癌の発症要因、発生母地、臨床症状、TNM 分類、病理組織像、予後、治療法について熟知し、指導医とともに治療を実施できる。
- 10) 基底細胞癌の臨床症状、ダーモスコピー所見、病理組織所見、鑑別診断、予後、治療法について熟知し、指導医とともに治療を実施できる。
- 11) 日本皮膚科学会の皮膚悪性腫瘍診療ガイドラインを理解する。

以下、12)から14)について説明できる。

- 12) 汗腺癌、脂腺癌、毛器官癌、転移性皮膚癌
- 13) 良性神経性腫瘍として神経線維腫、神経鞘腫、顆粒細胞腫の臨床症状と病理組織像
- 14) Merkel 細胞腫、悪性末梢性神経鞘腫瘍

#### (24) 間葉系腫瘍

- 1) 皮膚線維腫の臨床症状、ダーモスコピー所見、病理組織所見を説明し、治療を実施できる。
- 2) ケロイド、肥厚性瘢痕、軟性線維腫、被角線維腫の臨床症状、病理組織所見を説明し、治療を実施できる。
- 3) 脂肪腫および血管脂肪腫の臨床症状と画像検査所見、病理所見を熟知し、治療を実施できる。
- 4) 皮膚平滑筋腫、グロームス腫瘍について理解する。
- 5) 単純性血管腫、海綿状血管腫、血管拡張性肉芽腫、被角血管腫、老人性血管腫について臨床症状、病理組織所見を説明し、治療を説明できる。
- 6) 血管肉腫、Kaposi 肉腫の病態、病理組織所見と治療法を熟知する。
- 7) 隆起性皮膚線維肉腫、悪性線維性組織球腫の臨床症状と病理組織所見を熟知し、治療方針を説明できる。
- 8) 手掌・足底線維腫症、腱鞘巨細胞腫などの軟部腫瘍、爪下外骨腫の臨床症状と病理組織所見を理解する。

#### (25) リンパ腫と類症

- 1) リンパ腫の分類、診断法、治療の原則を理解する。
- 2) 日本皮膚科学会の皮膚リンパ腫診療ガイドラインを理解する。
- 3) 菌状息肉症の症状について3期に分けて説明し、その病態および病理組織を熟

知し、早期病変の治療を実施し、進行期病変の治療方針を説明できる。

- 4) Sezary 症候群、成人 T 細胞白血病、CD30 陽性リンパ増殖症、皮膚 B 細胞性リンパ腫、EB ウイルス関連リンパ増殖症について理解し、治療を説明できる。
- 5) Hodgkin 病、白血病について理解し、治療を説明できる。
- 6) 木村氏病、肥満細胞腫について臨床像、病理組織所見を熟知し、臨床経過・治療を理解する。
- 7) Langerhans 細胞性組織球症の概念と臨床像・病理組織所見を説明できる。
- 8) 偽リンパ腫についてリンパ腫との鑑別を熟知する。

#### (26) メラノサイト系腫瘍

- 1) 悪性黒色腫の生物的特徴を把握し、診断法を熟知し治療方針を説明できる。
- 2) 悪性黒色腫の疫学を理解し、臨床的特徴を Clark の病型分類（結節型、表在拡大型、末端黒子型、悪性黒子型）と関連させて説明できる。
- 3) 悪性黒色腫の臨床診断について早期病変、進行期病変の臨床的特徴を熟知する。
- 4) 悪性黒色腫のダーモスコピー所見を熟知し、検査を実施できる。
- 5) 悪性黒色腫の病理組織診断について所見を熟知し、Spitz 母斑などの良性色素性病変との鑑別を説明し、tumor thickness を計測するとともに、免疫組織学的マーカー（S-100 蛋白、melan-A、HMB-45 など）について理解する。
- 6) TNM 分類と病期分類（UICC）を理解し、治療原則を各病期別に理解する。
- 7) センチネルリンパ節生検の方法、意義について理解し、適応を説明できる。
- 8) 進行期病変に対する多剤併用化学療法、インターフェロン療法、分子標的薬による治療を熟知する。

## (27) ウイルス感染症

- 1) ウイルス性皮膚疾患を原因ウイルス群によって分類・列挙し、病態、検査法、病理組織像、症状を説明できる。
- 2) 単純ヘルペス（口唇ヘルペス、性器ヘルペス、ヘルペス性歯肉口内炎、Kaposi 水痘様発疹症、ヘルペス性瘰癧、新生児ヘルペス）の病態を理解し、診断、治療を実施できる。
- 3) 水痘および帯状疱疹の病態を熟知し、それらの病原の検索、診断、合併症につき熟知し、治療を実施できる。
- 4) ヒト乳頭腫ウイルス感染症（ミルメシア、尋常性疣贅、青年性扁平性疣贅、尖圭コンジローム、Bowen 病様丘疹症、疣贅状表皮発育異常症）の病態を理解し、診断、治療を実施できる。
- 5) 伝染性軟属腫の病態を理解し、診断、治療を実施できる。
- 6) ウイルス性急性発疹症（風疹、麻疹、伝染性紅斑、手足口病、突発性発疹、伝染性単核球症、エンテロウイルス発疹症、Gianotti-Crosti 症候群）の疫学、病態を理解し、診断、治療を実施できる。
- 7) ウイルス性皮膚疾患に罹患した妊婦、胎児の病態を熟知し、適切に対応する。
- 8) 免疫不全をきたす全身疾患の合併症としてのウイルス感染症のスクリーニングができる。
- 9) 後天性免疫不全症候群（エイズ）の原因、病態、症状、経過、治療法について理解する。また皮膚症状を熟知する。

## (28) 細菌感染症

- 1) 細菌性皮膚疾患を原因細菌別に分類・列挙し、病態（表皮剥脱性毒素など）、検査法（グラム染色・細菌培養など）、有効抗菌剤について概説する。
- 以下、2)～6)について症状・経過を熟知し、症例に応じて適切な局所療法・全身療法を

実施できる。

- 2) 毛包性膿皮症（毛囊炎、癬、癬腫症、癰、尋常性毛瘡）
- 3) 汗腺性膿皮症（乳児多発性汗腺膿瘍）
- 4) 伝染性膿痂疹（ブドウ球菌性およびレンサ球菌性）、ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群（SSSS）、toxic shock syndrome、toxic shock-like syndrome
- 5) 丹毒、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎、ガス壊疽、リンパ管炎
- 6) 慢性膿皮症（化膿性汗腺炎を含む）
- 7) 以下のまれな感染症について症状、原因菌、診断、治療法を知る。ノカルジア症

## (29) 真菌感染症

- 1) 真菌症の検査法について熟知する。
  - 2) 皮膚糸状菌症の症状を熟知する。
  - 3) 日本皮膚科学会の皮膚真菌症診断・治療ガイドラインを理解する。
- 以下、4)～8)について症状、診断法、治療を熟知し、実施できる。
- 4) 白癬：頭部白癬、足白癬、手白癬、体部白癬、股部白癬、爪白癬、ケルスス禿瘡。
  - 5) 皮膚カンジダ症：カンジダ性指間びらん症、カンジダ性間擦疹、カンジダ性爪囲炎・爪炎、外陰カンジダ症、口腔カンジダ症。
  - 6) マラセチア感染症：癬風、マラセチア毛包炎
  - 7) 深在性真菌症：スポロトリコーシス、
  - 8) 以下のまれな真菌症について症状、原因菌、診断、治療法を知る。黒色真菌症、クリプトコックス症、アスペルギルス症、ムーコル症、輸入真菌症、黒癬

## (30) 抗酸菌感染症

- 1) 抗酸菌の検出方法（培養、PCR 法）、ツベルクリン反応、クオンティフェロン法、T-スポット法を理解する。
- 2) 真性皮膚結核（尋常性狼瘡、皮膚疣状結核、

皮膚腺病)・結核疹(丘疹状壊疽性結核疹、陰茎結核疹、Bazin 硬結性紅斑、腺病性苔癬)の概念を説明し、それぞれの症状、病理組織像、治療法を説明できる。

- 3) 非結核性抗酸菌症：原因菌を列挙し、感染経路、症状・治療について説明できる。
- 4) Hansen 病の現状・病因・病型・症状・診断・治療について説明できる。適切な社会的対応を実施できる。

### (31) 性感染症 (STI)

- 1) STI を列挙し、最近の動向、疾患の相互関係を理解し、感染防止を実施できる。
- 2) 梅毒の病期別臨床症状・検査法・診断法を熟知し、治療を実施できる。
- 3) 軟性下疳・鼠径リンパ肉芽腫症の原因菌、臨床症状、診断法を理解し、治療法を知る。
- 4) 毛虱・疥癬・性器ヘルペス・尖圭コンジローマの臨床症状・検査・診断・治療を熟知する。
- 5) 淋疾・クラミジア・トリコモナス・膣カンジダ症について臨床症状を理解し、対応を説明できる。

### (32) 動物性皮膚症・寄生虫症

- 1) 動物性皮膚症・皮膚に障害を与える寄生虫症を理解し、その主なものを列挙し、その症状を説明できる。
- 2) 刺咬性昆虫(ハチなど)、吸血性昆虫(シラミ類、蚊、ネコノミなど)、吸血性ダニ(イエダニなど)、刺咬性ダニ(ツメダニ)の種類と生態、これらによる症状、個体による反応の差を理解し、適切な治療、防除について熟知する。
- 3) 接触により障害を与える害虫(ドクガ類、イラガ類、アオバアリガタハネカクシ、アオカミキリモドキなど)による症状を理解し、適切な治療を行う。
- 4) 疥癬・ノルウェー疥癬(角化型疥癬)、動物疥癬について発生、感染様式を理解し、

治療、予防につき熟知のうえ、ヒゼンダニの検出方法を熟練する。

- 5) 日本皮膚科学会の疥癬診療ガイドラインを理解する。
- 6) マダニ刺咬を理解し、ライム病、日本紅斑熱伝播との関連につき説明できる。以下、7)~9)について病因・症状・診断・治療・予防を理解する。
- 7) 恙虫病
- 8) 皮膚顎口虫、施尾線虫症、creeping disease、Manson 孤虫症、フィラリア症、リーシュマニア症の症状
- 9) 海水浴皮膚炎、クラゲ皮膚炎、サンゴ皮膚炎

### (33) 附属器疾患(汗器官・脂腺・毛器官・爪)

- 1) 異汗症(汗疱)の症状と鑑別診断について熟知し、治療を実施できる。
- 2) 臭汗症の症状、保存的治療法、手術療法について熟知する。
- 3) 汗疹の症状について熟知し、治療を実施し、生活指導をする。
- 4) 汗腺膿瘍の症状を説明し、治療を実施できる。
- 5) 日本皮膚科学会の原発性局所多汗症診療ガイドラインを理解し、多汗症、無汗症、Fox-Fordyce 病の症状・経過・治療法を説明できる。
- 6) 尋常性痤瘡の発症機序について説明できる。
- 7) 日本皮膚科学会の尋常性痤瘡治療ガイドラインを理解し、尋常性痤瘡・集簇性痤瘡の症状を熟知し、治療法について熟練する。
- 8) 痤瘡様発疹(薬剤性痤瘡・化粧品痤瘡・職業性痤瘡など)について説明できる
- 9) 皮膚毛包虫症について説明できる
- 10) 新生児痤瘡について説明できる。
- 11) 脂腺増殖症について説明できる。
- 12) 酒皸、酒皸様皮膚炎(口囲皮膚炎)の原因・症状を熟知し、治療を実施できる。

- 13) 日本皮膚科学会の円形脱毛症診療ガイドラインを理解し、円形脱毛症について説明し、その治療を実施できる。
  - 14) 日本皮膚科学会の男性型脱毛症診療ガイドラインを理解し、男性型脱毛症について説明し、その治療を実施できる。
  - 15) 抜毛症について説明し、その治療を実施できる。
- 以下、16)～22)について説明できる。
- 16) 休止期脱毛症、癬痕性脱毛、外傷性脱毛症、毛髪奇形
  - 17) 多毛症、無毛症
  - 18) 黄色爪、白色爪、爪甲白斑、緑色爪、爪甲色素線条
  - 19) 爪甲剥離症、匙状爪甲、時計皿爪、爪甲横溝
  - 20) 先天性疾患に伴う爪病変
  - 21) 爪囲炎の症状を熟知し、その治療を実施できる。
  - 22) 陥入爪、爪甲鉤彎症について説明し、その治療を実施できる。

#### (34) 粘膜疾患

- 1) 皮膚科専門医が対応する肉眼で診断可能な口腔粘膜と外陰部の重要な粘膜疾患について正確な知識を持ち、的確に診断し、適切に対処できる。
- 2) 口唇炎（接触口唇炎、剥脱性口唇炎、形質細胞性口唇炎、肉芽腫性口唇炎、光線性口唇炎）、口腔内アフタの病態、症状、治療について説明できる。
- 3) 口腔・舌・歯肉・歯を侵す炎症性皮膚疾患（膠原病、天疱瘡、扁平苔癬、Behçet病、Sjögren症候群など）について説明できる。
- 4) 口腔・外陰部・肛門に生じる腫瘍（尋常性疣贅、尖圭コンジローマ、血管腫、粘液囊腫、疣状癌、有棘細胞癌、悪性黒色腫、Bowen病、Paget病など）の診断と治療について説明できる。

- 5) 外歯瘻について説明できる。

#### (35) 全身疾患に伴う皮膚症状

以下、1)～7)を熟知する。

- 1) 内臓悪性腫瘍に伴うデルマトローム、例（Sister Mary Joseph 結節、皮膚筋炎、腫瘍随伴性天疱瘡、黒色表皮腫、後天性魚鱗癬、Sweet病、紅皮症、Leser-Trélat徴候など）
- 2) 糖尿病に合併する皮膚疾患（黄色腫、浮腫性硬化症、壊疽、リポイド類壊死症、環状肉芽腫、前脛骨部萎縮性色素斑、水疱、後天性反応性穿孔性膠原線維症など）
- 3) 皮膚と視覚器を同時に侵す疾患、例：アトピー性皮膚炎、単純ヘルペス、Behçet病、Stevens-Johnson症候群、Chediak-東症候群、Vogt-小柳-原田症候群、Reiter症候群、弾性線維性仮性黄色腫、サルコイドーシス、Crow-Fukase症候群
- 4) 肝臓障害、消化管障害、腎臓障害などさまざまな臓器障害に合併する皮膚疾患
- 5) 全身性遺伝性疾患に伴う皮膚症状
- 6) 妊娠に伴う皮膚変化、皮膚病変
- 7) 加齢に伴う皮膚変化、皮膚病変

#### <方略>

- 1) 日本皮膚科学会総会における教育講演や日本皮膚科学会主催研修講習会などの講習を受ける。
- 2) 皮膚科学の成書、学術雑誌、皮膚科専門医テキストを読み学習する。
- 3) 外来・病棟診療現場で指導医のもと、診断、検査、治療を実施する。
- 4) 臨床カンファレンスにて症例を呈示し、診断、治療方針を討論する。
- 5) インターネット検索を活用し、必要な論文、情報を取得する。
- 6) 日本皮膚科学会総会、支部総会、地方会などで症例報告や一般演題を発表する。
- 7) 症例報告や臨床研究、臨床統計などの論



文を作成し学術雑誌に投稿する。

- 8) 上記 35 領域の疾患の経験症例を記録する。
- 9) 入院症例・外来症例レポートを 15 例作成する。

## 目標 2. 診断技能

### <一般目標>

皮膚疾患の診断を正確に行うために必要な医療面接技能、症候学、発疹学、皮膚病理組織学を修得し、さらに一般のおよび皮膚科的検査法を熟知する。

## 研修項目 1. 皮膚科診断学

### (a) 医療面接

#### <行動目標>

- 1) 問診の手順と取得すべき情報を熟知する。
- 2) 傾聴的・共感的な態度、開放的質問、アイコンタクト、まとめや要約などの医療面接技能を熟知し、実施できる。患者のニーズを過不足無く捕らえる。
- 3) 聴取した主訴、現病歴、既往歴、家族歴、その他の必要事項について明確で必要かつ十分な記載を実施できる。

### (b) 皮膚科症候学

#### <行動目標>

- 1) 瘙癢・疼痛のメカニズムを説明できる。
- 2) 瘙癢・疼痛を生じる疾患について熟知する。
- 3) 瘙癢・疼痛の評価法とその治療を熟知する。
- 4) 瘙癢・疼痛を訴えるときの問診・検査・診断・治療を説明し、実施できる。

### (c) 発疹学

#### <行動目標>

- 1) 皮疹および粘膜疹、原発疹および続発疹について、記載し、皮膚科学上必要な用語を熟知し、説明できる。
- 2) 個疹の特徴を正確に記載できる。
- 3) 発疹の分布、配列など、全体像について特徴を把握し、記載することに熟練す

る。

- 4) 特定の発疹型に対応する主な疾患を列挙できる。
- 5) 主な発疹型と、病理組織像の対応を説明できる。

### <方略>

- 1) 上記各項目に関する講義を受ける。
- 2) 皮膚科学の教本、皮膚科専門医テキストを熟読する。
- 3) 日常診療において医療面接を実施し、発疹の記載を確実に実施し、指導医のチェックを受ける。
- 4) カンファレンスにて病歴、症候、発疹から考えられる鑑別診断、鑑別法を述べ討論する。
- 5) 毎年達成度を研修の記録に記載し、指導医のフィードバックを受ける。

## 研修項目 2. 皮膚病理組織学

### <行動目標>

- 1) 皮膚病理組織学の必要性とその限界を熟知する。
- 2) 病理診断上、通常行われる染色法とその意義を説明できる。
- 3) 組織化学染色法、免疫組織化学染色法（蛍光抗体直接法を含む）の方法と意義を理解する。
- 4) 電子顕微鏡検査の意義を理解し、必要に応じて適切に検体を提出できる。
- 5) 病理組織所見に関する用語を熟知し、皮膚病理標本を鏡検し所見を説明できる。
- 6) 主要な皮膚疾患の病理組織像を説明できる。
- 7) 病理組織所見から考えられる疾患を列挙できる。

### <方略>

- 1) 上記各項目に関する講義を受ける。
- 2) 皮膚病理学の教本を熟読する。
- 3) 皮膚病理組織標本を一人で観察し、所見を記載する。
- 4) 皮膚病理組織標本を指導医とともに鏡検し、所見を確認する。
- 5) カンファレンスにて病理組織所見を提示し、説明する。
- 6) 毎年達成度を研修の記録に記載し、指導医のフィードバックを受ける。

### 研修項目 3. 皮膚科的検査法

#### <行動目標>

- 1) 検査法の全般的事項と適応を説明できる。
- 2) 一般的な血液像、血液生化学、血清検査法を熟知し、適切に検体を提出し、結果とその意義について説明できる。
- 3) ダーモスコピーの原理を熟知し、悪性黒色腫、母斑細胞母斑、基底細胞癌、脂漏性角化症などの所見を説明でき、検査を実施し、鑑別診断を列挙できる。
- 4) 単純 X 線法、超音波断層法、CT 検査法、MRI 検査法、PET 検査法などの画像診断法を熟知し、結果を説明できる。
- 5) 理学的検査法：皮膚描記法（Darier 徴候を含む）、硝子圧法、知覚検査法などの検査法を熟知し、実施できる。
- 6) Nikolsky 現象、Auspitz 現象を理解し、診断手段として実施できる。
- 7) 生理機能検査法：足関節上腕血圧比（ABI）、皮膚還流圧（SSP）、超音波ドプラー法、皮膚温の測定、肢端脈波、皮膚血流量測定、サーモグラフィー、発汗テスト、角質水分量測定、経皮水分蒸散量などの意義を理解し、説明できる。
- 8) アレルギー検査法：皮内テスト、プリックテスト、スクラッチテスト、貼布試験、内服チャレンジテストなどの in

- vivo テスト、RAST 法、DLST などの in vitro テストの意味と実施方法、判定とその意義について説明し、実施できる。
- 9) 免疫検査法：リンパ球サブセット同定、HLA タイピング、リンパ球刺激試験、サイトカインやケモカイン測定などの意義を理解する。
- 10) 自己抗体検査法：蛍光抗体間接法、1M 食塩水剥離皮膚を用いた蛍光抗体間接法、免疫ブロット法、ELISA 法の原理と意義を理解し、必要に応じて検体を提出し、結果とその意義について説明できる。
- 11) 光線検査：Wood 灯検査、MED, MPD, 作用波長の測定、光貼布試験、光内服試験などの実施方法、判定とその意義について説明し、実施できる。
- 12) 皮膚生検：適応・部位・方法・リスクについて列挙して説明し、実施できる。
- 13) 一般細菌・抗酸菌の培養方法、同定法、染色法を理解し、適切に検体を提出し、結果とその意義について説明できる。
- 14) 真菌の直接鏡検法を実施、判定し、結果とその意義について説明できる。
- 15) 真菌培養・同定法を理解し、適切に検体を提出し結果とその意義について説明できる。
- 16) 診断的皮内テスト：ツベルクリン反応など診断的皮内テストを実施、判定し、結果とその意義について説明できる。
- 17) ウイルス検査法：Tzanck テストを実施、判定し、結果とその意義について説明できる。
- 18) ウイルス感染の血清診断法、ウイルスの分離同定法の原理と意義を理解し、必要に応じて検査を実施し結果とその意義について説明できる。
- 19) 梅毒検査法原理と意義を理解し、必要に応じて検査を実施し、結果とその意義について説明できる。
- 20) 分子生物・遺伝子学的検査法：免疫ブ

ロット法、PCR 法、サザンブロット法、などについて理解する。

- 21) 臨床写真撮影の意義を理解し、円滑に適切な臨床写真を記録できるように操作を熟練する。

#### <方略>

- 1) 上記各項目に関する講義を受ける。
- 2) 皮膚科学の教本、皮膚科専門医テキストを熟読する。
- 3) 各検査法を指導医とともに実施し、指導を受ける。
- 4) カンファレンスにて症例を呈示、各検査結果を説明し、討論する。
- 5) 上記のうちプリックテストまたはスクラッチテスト、貼布試験、最小紅斑量(MED)測定、ダーモスコピー、皮膚生検、Tzanck テスト、真菌の直接鏡検の経験を研修の記録に記録する。

## 目標 3 治療技能

#### <一般目標>

日本皮膚科学会が発表したさまざまな皮膚疾患についてのガイドライン、種々の QOL 評価法について理解し、皮膚疾患に対する適切な治療法の基本的事項を説明し、主要な治療法を実施できる。

#### 研修項目 1. 全身療法

#### <行動目標>

- 1) 全身療法を必要とする皮膚疾患について、治療法の原則を説明できる。
- 2) 抗菌剤の種類と抗菌スペクトル、および感受性テストに基づいた投与方法・副作用について説明し、投与を実施できる。以下、3)～11)について適応、使用方法あるいは実施法、作用と副作用、薬剤相互作用、禁忌などを熟知して投与を実施できる。
- 3) 副腎皮質ステロイド剤
- 4) 抗ウイルス剤
- 5) 抗真菌剤
- 6) 抗腫瘍剤
- 7) 免疫抑制剤
- 8) 抗ヒスタミン剤・抗アレルギー剤
- 9) 消炎鎮痛剤
- 10) その他の全身療法：レチノイド、DDS、ヨウ化カリウム、フィナステリドなど。
- 11) TNF- $\alpha$  阻害薬、IL12/23 阻害薬等の生物学的製剤、血漿交換法、プラズマフェレーシス、顆粒球除去療法、大量免疫グロブリン静注療法について適応、使用方法あるいは実施法、作用と副作用、禁忌などを熟知し説明できる。

#### <方略>

- 1) 皮膚科学の教本、皮膚科専門医テキスト、薬剤添付文書を熟読する。
- 2) カンファレンスにて症例を呈示、治療方針を説明し、討論する。
- 3) 各治療法を指導医とともに実施し、指導

を受ける。

## 研修項目 2. 局所療法

<行動目標>

- 1) 皮膚外用剤の基剤および配合剤の種類を列挙し、効果、副作用について説明できる。
  - 2) 皮膚外用療法を実施できるに当たって必要な皮膚清浄法（消毒・入浴・石鹸など）とその意義について説明できる。
  - 3) 外用剤の使用法（単純塗布・重層法・貼付法・ODT など）に応じた適応と起こりうる副作用を列挙して説明し、実施できる。
  - 4) 包帯法を熟練し、実施できる。
  - 5) 副腎皮質ステロイド外用剤の種類と使い分けの基本事項、副作用とその防止法について熟知する。
  - 6) サンスクリーンの効果をあらわす SPF、PA の意味を理解し、適応と使用法を説明できる。
  - 7) 各種創傷被覆材の特徴と適応を理解し、適切な創傷被覆材を使用した創傷管理が実施できる。
  - 8) 粘膜病変に対して、それぞれの疾患と症状に応じた外用療法を説明できる。
  - 9) 局所注射法および局所処置法について知り、症例に応じて実施できる。
  - 10) 軟属腫摘除を熟練する。
  - 11) 電気療法（電気凝固、電気乾固、イオントフォーシス）について説明できる。
  - 12) 日本皮膚科学会ケミカルピーリングガイドライン 2004 を理解し、その適応、方法について説明できる。
- 以下、13)～24)について適応と使用法、作用と副作用、禁忌を説明できる。
- 13) 亜鉛華（単）軟膏
  - 14) 尿素軟膏
  - 15) 角質軟化剤

- 16) 抗真菌外用剤
- 17) 抗菌外用剤
- 18) 非ステロイド抗炎症外用剤
- 19) 保湿外用剤
- 20) ビタミン D3 外用剤
- 21) アダパレン外用剤
- 22) 免疫調整外用剤（タクロリムス外用剤、イミキモド外用剤）
- 23) 抗潰瘍外用剤（FGF 製剤、その他）
- 24) 発毛・育毛外用剤

<方略>

- 1) 皮膚科学の教本、皮膚科専門医テキスト、薬剤添付文書を熟読する。
- 2) 各外用療法を担当患者に説明し、質問に答え、十分理解させる。
- 3) 診断の確定した患者に指導医のもとあるいは単独で各外用療法を実施し、効果不十分の際には指導医の助言を受ける。
- 4) 達成度を研修の記録に記載し、指導医のフィードバックを受ける

## 研修項目 3. スキンケア

<行動目標>

- 1) 健常人と各種疾患でのスキンケアの意義について熟知し、実施できる。
- 2) スキンケア製品に含まれる主な成分の皮膚に対する作用を知る。
- 3) 化粧品、各種スキンケア製品の適応と使用法を理解する。

<方略>

- 1) 上記各項目に関する講義、講習会を受ける。
- 2) 各スキンケア製品のパンフレットを参照する。
- 3) 各スキンケア製品を診断の確定した患者に使用し、効果の有無を判断する。

- 4) 達成度を研修の記録に記載し、指導医のフィードバックを受ける。

## 研修項目 4. 理学療法

### <行動目標>

- 1) 光線療法の理論と種類についての知識の上に立って、皮膚疾患に対する適応を列挙し、説明できる。
- 2) narrow-band UVB, PUVA についての基本的知識と適応疾患を説明し、治療を実施できる。
- 3) 皮膚疾患治療に必要な放射線療法の理論と種類を知る。
- 4) CO2 レーザー、色素レーザー、Q スイッチルビーレーザー、アレキサンドライトレーザー、半導体レーザー療法について熟知し、実際の適応疾患および効果、リスク、保険適応を含め必要な事項を説明できる。
- 5) 温熱療法を理解し、施行できる。
- 6) 凍結療法（ドライアイス法、液体窒素法）について説明し、実施できる。

### <方略>

- 1) 皮膚科学の教本、皮膚科専門医テキスト、保険診療に関する書籍を熟読する。
- 2) 各治療法を担当患者に説明し、質問に答え、十分理解させる。
- 3) 診断の確定した患者に指導医のもとあるいは単独で各治療法を実施し、効果不十分の際には指導医の助言を受ける。
- 4) 紫外線治療、液体窒素法の治療経験を研修の記録に記録する。

## 研修項目 5. 皮膚科手術療法

### <行動目標>

- 1) 皮膚科手術療法について、適応・方法・限界を理解し、症例ごとに適応を説明で

きる。

- 2) 術者・手術野の消毒、清潔野の設定、局所麻酔を理解し、適切に実施できる。
- 3) 使用する手術器具の種類と名称、使い方を列挙して説明できる。
- 4) 皮膚外科的切除法、真皮縫合・表皮縫合法を熟練し、実施できる。
- 5) 皮膚および口腔粘膜の開放性および非開放性損傷の治療を指導医の指導のもとで実施できる。
- 6) Z 形成術、各種皮弁法について理解し、症例に当たって的確な作図を実施できる。
- 7) 極簿分層植皮（Thiersch 法）・分層植皮法・全層植皮法・メッシュ植皮法などについて、方法、デルマトームの使用法、適応を説明し、実施できる。
- 8) 皮膚剥削術、化学外科療法（Mohs ペースト法）についての適応と方法を説明できる。
- 9) リンパ節郭清法の適応を理解し、説明できる。
- 10) 外傷、炎症病巣の治癒機転、術後の生理機能および外観の維持、変形の改善について熟知する。
- 11) 術後の管理（術後感染の防止、ケロイド形成予防など）、経過観察、後療法についての必要な事項を理解し、実施できる。
- 12) 実施した手術の簡潔な記録を作成できる。

### <方略>

- 1) 上記各項目に関する講義を受ける。
- 2) 良性腫瘍切除、単純縫縮にあたっては独立して施行し、必要に応じて指導医の指導を仰ぐ。
- 3) 再建の必要な良性腫瘍、悪性腫瘍については、助手としてあるいは指導医のもとで術者として実施し、技能を習得する。
- 4) 外来・病棟診療現場で術前、術後の管理

と手術に関する説明を指導医とともに実施する。また手術記録を作成する。

- 5) 皮膚良性腫瘍摘出術 5 例、皮膚悪性腫瘍摘出術 3 例、皮膚切開術 3 例、植皮術 1 例の経験を研修の記録に記録する。
- 6) 手術症例 10 例のレポートを作成し提出する。

## 目標 4. 医療人として必要な倫理性、社会性等の事項

ここに挙げた項目は、皮膚科専門医としてだけでなく、医療人として必要な事項である。2年間の初期研修で習得しておくべき項目も含むが、生涯にわたり基本的な重要事項であり、研修開始後1年ごとに評価を受けることが求められる。

### 研修項目 1. 医の倫理

<一般目標>

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、高い倫理観をもった診療を実施できる。

<行動目標>

- 1) 医の倫理、生命倫理につき理解し適切に行動できる。
- 2) 治験や先進的診断・治療、臨床研究における倫理を理解し、患者の権利・個人情報の保護を実践する。
- 3) 学会発表・論文発表における倫理・利益相反を理解し、患者の権利・個人情報の保護を実践する。
- 4) 遺伝性疾患における倫理を理解し、患者の権利・個人情報の保護を実践する。

<方略>

- 1) 上記項目についての講義、講習を受ける。
- 2) 新聞やインターネット、図書などのメディアを通じて医の倫理を自習する。
- 3) 治験、臨床研究などに関わる際には、治験審査委員会や倫理委員会等などの申請書類の内容と審査結果を熟知し、倫理指針、審議過程を自習する。
- 4) 学会、論文発表の際の倫理・利益相反を学会の規程、論文の投稿規定を理解し遵守する。
- 5) 遺伝性疾患に関わる際には「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」「遺伝学的検査に関するガイドライン」を理解し、遵守する。

### 研修項目 2. 医療安全と法令遵守

<一般目標>

患者および医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身につけ、危機管理に参画する。また、そのために必要な法規、規約を熟知する。

<行動目標>

- 1) 医療安全の考え方を理解し、実施できる。
- 2) インシデント、アクシデントに対してマニュアルなどに沿って速やかに報告、対応できる。
- 3) 守秘義務を果たし、個人情報保護の配慮ができる。
- 4) カルテ開示の意義を理解し、開示に堪える正確な診療録の記載を実践する。
- 5) 院内感染対策のしくみを理解し適切に行動できる。
- 6) 副作用救済機構のしくみを理解し、必要に応じて患者に提示できる。

<方略>

- 1) 病院や医師会、学会等で開催される医療安全講習会・感染対策講習会を受講する。
- 2) インシデント報告、アクシデント報告を積極的に行う。
- 3) SOAP 方式によるカルテ記載について指導医に校閲を受ける。
- 4) 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) のホームページを参照し、必要時に診断書を作成し指導医の校閲を受ける。
- 5) 日本皮膚科学会関連規則を熟読する。

### 研修項目 3. 医療経済

<一般目標>

我が国の健康保険制度や医療助成制度、先進医療の現状を理解し、保険診療についての正しい知識を得て、実施できる。

<行動目標>

- 1) 健康保険制度の関連法規を理解し、保険診療の範囲を熟知する。



- 2) 医療事務担当者と協力し保険医として正しい診療報酬請求ができる。
- 3) 必要に応じて、レセプトの症状詳記ができる。
- 4) 高額療養費制度の特定疾患医療費助成制度を理解し、必要に応じて患者に提示できる。
- 5) 先進医療（最新の検査・治療など）の情報を収集し、必要に応じて提示ができる。
- 6) 老人医療および介護保険に関する知識を習得する。

#### <方略>

- 1) 上記項目について講義や講習会を受ける。又、最新の {医科点数表の解釈}（通称；青本、社会保険研究所発行）にて関連事項につき自己研修する
- 2) 担当患者の診療報酬請求書を確認する。
- 3) 先進医療に関する情報を、インターネットなどで入手する。

### 研修項目 4. 患者・医師関係とインフォームドコンセント

#### <一般目標>

患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を構築する。

#### <行動目標>

- 1) 患者の訴えに共感して傾聴し、過不足無く患者のニーズを捕らえ、それに応える努力をする。
- 2) 患者の社会的背景、家族関係、経済状況、嗜好などを勘案し、適切な治療選択、助言、生活指導ができる。又、患者からのクレームに対して適切に対応できるよう関係部門と連携体制を確認・構築する。
- 3) 指導医のもと患者・家族がともに納得できるインフォームドコンセントを実践する。

#### <方略>

- 1) 予診を取り、次いで指導医の診察に陪席する。
- 2) 上記項目について講義・講演などを聴いて情報を得る。
- 3) 指導医のもとで患者家族に病状や治療を説明する。又、患者の納得度・理解度が低い場合やクレームがあった場合は直ちに指導医に相談し指示を仰ぐ。

### 研修項目 5. チーム医療

#### <一般目標>

医療チームの構成員であることを理解し、他の構成員と良好なコミュニケーションを取ることができる。

#### <行動目標>

- 1) 担当症例を常に把握し、チーム構成員に対し過不足無く症例呈示ができる。
- 2) 指導医、上級医に適切なタイミングでコンサルテーションができ、同僚および後輩への教育的配慮ができる。
- 3) 同僚医師、他科医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなど、他の医療従事者と適切なコミュニケーションと連携がとれる。
- 4) 必要に応じて他院の医師に適切な情報提供ができる。

#### <方略>

- 1) 担当患者の状況を指導医に提示し、説明し、討論する。
- 2) 他科診療依頼、他院診療依頼の依頼文を作成し指導医の校閲を受ける。
- 3) 積極的に他科医師、看護師、検査技師等とコミュニケーションを図り、診療、処置あるいは検査が遅滞なく進むように関係構築し、情報を共有する。
- 4) 指導医の指導や自学にて身についたものを同僚、後輩に伝える。

## 研修項目 6. 健康管理・予防医学

### <一般目標>

皮膚科専門医として必要な健康管理、公衆衛生、精神衛生、遺伝学などについて理解し、実施できる。

### <行動目標>

- 1) 日常生活における食品・嗜好物・環境と疾病との関連性（食事、飲酒、喫煙、食塩過剰、環境有害物質・紫外線など）を理解する。
- 2) 一般家庭薬（内服・外用）、民間薬、いわゆる健康食品、あるいは、いわゆる民間療法などについて有害となりうる側面や副作用を理解する。
- 3) 公衆衛生・防疫とワクチンの意義を熟知し、感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律を理解する。
- 4) 保健所に届け出を要する疾患について理解する。
- 5) 精神状態と皮膚疾患との関連性について説明できる。
- 6) 職場・学校・家庭における精神身体医学の重要性、およびストレスコントロールやストレス解消などの方策について理解する。
- 7) 日本皮膚科学会の皮膚疾患遺伝子診断ガイドラインを理解し、遺伝相談のあり方を知る。

### <方略>

- 1) 上記項目についての講義、講習を受ける。
- 2) スキンケア・栄養管理に関する論文、著書を読み自習する。
- 3) 国立感染症研究所のホームページなどを閲覧し、感染症に関する情報を取得し理解する。
- 4) 皮膚と精神の関わりに関する論文、著書を読み自習する。
- 5) 遺伝医学の基礎に関する教科書を読み自習する。

## 目標 5 学問的姿勢

### <一般目標>

患者の問題を把握し、問題対応型の思考をし、生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。

### <行動目標>

- 1) 担当症例の問題点を抽出し、解決法を議論できる。
- 2) 学会、研究会、講演会などに積極的に参加し最新の知識を得る。
- 3) Evidence-based medicine (EBM) の背景、意義を理解し、それに基づいた治療方策の立て方を理解する。
- 4) 診療ガイドラインの意義と応用法を理解する。
- 5) 自己管理能力を身につけ生涯にわたり診療能力の向上に努める。

### <方略>

- 1) 担当患者をカンファレンスに提示し討論する。
- 2) 指導医のもと学会および論文発表を行う。
- 3) 学会、研究会、講演会に参加、またはeラーニングを受講する。
- 4) PubMed などのインターネット検索を熟練する。
- 5) EBM、診療ガイドラインの意義に関する講習を受ける。
- 6) 各疾患の診療ガイドラインを入手し熟読する。

### III. 経験目標と評価

#### (1) 臨床症例経験

##### A) 経験症例確認（形成的評価対象）

研修内容に偏りがないう、研修評価票の経験症例確認欄に下記の35の疾患群について経験したものを患者ID、病名、診療年月日を記録し、毎年度末に指導医の確認、評価を受けることとする。研修施設のプログラム管理委員会や皮膚科領域専門委員会などから経験したことの証明を求められることがある。研修期間中に90%以上の疾患群を経験すること。

1. 皮膚炎・湿疹
2. 紅皮症
3. 蕁麻疹
4. 痒疹
5. 瘙痒症
6. 薬疹
7. 血管・リンパ管の疾患
8. 紅斑症
9. 角化症
10. 炎症性角化症と膿疱症
11. 水疱症
12. 膠原病および類症
13. 代謝異常症
14. 軟部組織（皮下脂肪組織・筋肉）疾患
15. 肉芽腫症
16. 太陽光線による皮膚障害
17. 物理・化学的皮膚障害
18. 皮膚潰瘍
19. 褥瘡
20. 色素異常症
21. 母斑と母斑症
22. その他の遺伝性皮膚疾患
23. 上皮性腫瘍・神経系腫瘍
24. 間葉系腫瘍
25. リンパ腫と類症
26. メラノサイト系腫瘍

27. ウイルス感染症
28. 細菌感染症
29. 真菌感染症
30. 抗酸菌感染症
31. 性感染症（STI）
32. 動物性皮膚症・寄生虫症
33. 付属器疾患（汗器官・脂腺・毛髪・爪）
34. 粘膜疾患
35. 全身疾患に伴う皮膚症状（デルマトローム）

##### B) 経験症例レポート提出（総括的評価対象）

- 1) 定められた様式に沿って15例以上の症例レポートを記載し、指導医の確認を受け、提出すること。
- 2) 提出症例は全て、入院担当症例か、外来で複数回診察を担当したものでなければならない。
- 3) 提出症例はトータルで15例以上とし、入院担当症例7例以上を含むものとする。
- 4) 提出症例は最終的に以下の症例を各1例以上例含まなければならない（必須症例）。
- 5) 初期臨床研修期間の経験症例は含めてはならない。

- ① 接触皮膚炎
- ② アトピー性皮膚炎
- ③ 蕁麻疹
- ④ 薬疹
- ⑤ 乾癬
- ⑥ 膠原病・自己免疫性水疱症
- ⑦ 慢性皮膚潰瘍
- ⑧ 色素異常症
- ⑨ 皮膚悪性腫瘍
- ⑩ 皮膚ウイルス感染症
- ⑪ 皮膚細菌感染症
- ⑫ 皮膚真菌症

##### (2) 診断技能経験（形成的評価対象）

- 個別目標2：診療技能につき1. 皮膚科診断学、  
2. 皮膚病理組織学は毎年自己評価を記入し、指

導医の評価、フィードバックを受けることとする。3. 皮膚科的検査法のうち下記のは患者ID、疾患名、経験年月日を記録し、毎年度末に指導医の確認、評価を受けることとする。研修期間中にすべて経験すること。

なお、研修施設のプログラム管理委員会や皮膚科領域専門委員会などから経験したことの証明を求められることがある。

- 1) プリックテストまたはスクラッチテスト 3例
- 2) 貼布試験 3例
- 3) 最小紅斑量(MED)測定 3例
- 4) ダーモスコピー 10例
- 5) 皮膚生検 10例
- 6) 細胞診：Tzanckテスト 3例
- 7) 真菌の直接鏡検 3例

### (3)治療技能経験

#### A) 経験症例確認（形式的評価対象）

個別目標3：治療技能のうち1. 全身療法、2. 局所療法、3. スキンケアは毎年自己評価を記入し、指導医の評価、フィードバックを受けることとする。4. 理学療法、5. 手術療法については研修評価票の経験症例確認欄に経験したものを患者ID、疾患名、診療年月日を記録し、毎年度末に指導医の確認・評価を受けることとする。研修期間中にすべて経験すること。

なお、研修施設のプログラム管理委員会や皮膚科領域専門委員会などから経験したことの証明を求められることがある。

#### 1) 理学療法

- i. 紫外線治療 3例
- ii. 液体窒素療法 3例

#### 2) 手術療法

- i. 皮膚良性腫瘍摘出術 5例
- ii. 皮膚悪性腫瘍摘出術 3例
- iii. 皮膚切開術 3例
- iv. 植皮術 1例

#### B) 経験手術症例レポート（総括的評価対象）

1) 経験手術症例レポート提出は、10例以上とする。ただし、経験症例レポート提出とは重複しないこととする。

2) 初期臨床研修期間の経験症例は含めてはならない。

3) 手術経験には以下の条件を満たす症例を各1例以上含まなければならない。また、3.4.5については、術者として経験した症例とすること。なお、条件の重複する症例はそれぞれの条件を満たしたものとする。たとえば「顔面の粉瘤」は3、5を満たすと考えて良い。

1. 悪性黒色腫または有棘細胞癌または乳房外Paget病
2. 基底細胞癌
3. 粉瘤
4. 粉瘤以外の皮下腫瘍
5. 顔面の腫瘍
6. 分層または全層植皮術

## おわりに

以上、皮膚科専門医として修得、履修すべき内容を具体的に記述した。しかし、医学は日進月歩で変化するため、内容は適宜更新される。「研修内容」は、その性格上、学習するものを主語として記されているが、指導医も熟読して、その施設において実施可能な指導内容の設定と研修プログラムの作成に役立てて頂きたい。

2015年3月作成責任者 石河 晃、佐山浩二